



## きつねの伝言<sup>でんごん</sup>

むかし、五条<sup>ごじょう</sup>のいかだ乗りが、いかだに乗って川を下っていると、どこからか、「おうい。わしは五条のきつねだが、子どもが生まれたと和歌山のきつねに伝えてくれ」という声がありました。

いかだ乗りは、川を下って行って、もうすぐ和歌山というところまで来たとき、「おうい、和歌山のきつねよう。五条のきつねが子どもを生んだぞう」といって、大きな声で知らせてやりました。

そのうち、またいかだ乗りが川を下っていると、あのきつねの声がして、「このあいだは、世話になったなあ」といいました。ふと見ると、いかだの上に、竹の皮につつんだおまんじゅうが置いてあったということです。

おしまい。

原話…『大和民俗復刊第二号』奈良教育大学民俗学研究会  
再話…村上郁